

第35号

奈良 国立博物館 だより

平成12年10・11・12月



特別展 第52回正倉院展

東・西新館

10月28日(土)～11月13日(月) 会期中無休

午前9時～午後5時(入館は午後4時30分)

金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)

〔写真解説〕

黄金瑠璃銅背十二稜鏡

正倉院宝物では、七宝釉を用いた唯一の鏡。鏡面は、銀製の厚い板を十二稜形に切り取ったもの。鏡背は、七宝釉を施す銀板を組み合わせて、鈕を花芯に花卉を巡らす宝相華文となっている。七宝釉銀板は、銀の薄板を折り曲げ、金線で区画して、各部に黄色・淡緑色・深緑色の七宝釉を施したもの。他に類を見ない特殊な装飾の鏡として貴重な宝物である。

(「正倉院展」より)

特別出陳 唐招提寺 国宝 木心乾漆薬師如来立像

本館

10月1日(日)～12月24日(日)

特別出陳 薬師寺 重要文化財 銅造薬師三尊像

西新館

～10月9日(月)、12月2日(土)～12月24日(日)

平常展 仏教美術の名品

本館：10月1日(日)～

西新館：～10月9日(月)、12月2日(土)～12月24日(日)

年末年始の休館：12月25日(月)～1月3日(水)

特別展

第52回正倉院展

東・西新館 10月28日(土)～11月13日(月)

毎年恒例の正倉院展が本年も当館で開かれます。本年は、琵琶や撥鏝製の撥、簫、方響などの楽器類、弓具や鉾などの武器・武具類がまとまって出陳されます。

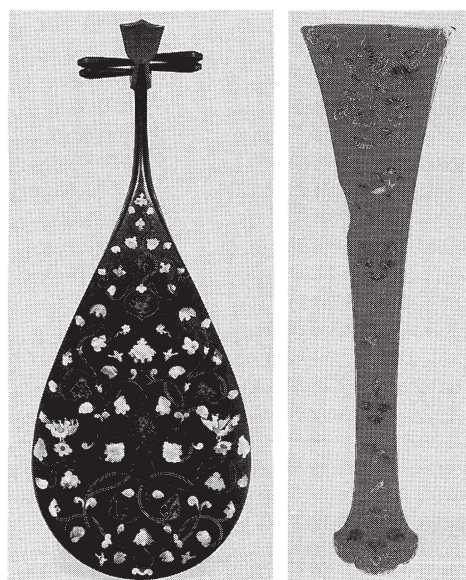
また、色鮮やかな七宝製の鏡として有名な黄金瑠璃鈿背十二稜鏡や、奈良時代のやきものを代表する三彩陶器、北斗七星を背に刻むスッポン形の石製容器なども出品されます。

総点数は78件、うち23件が初出陳となっており、本年も多彩な内容の正倉院宝物の数々が展覧されます。

21世紀最後の秋を飾る第52回正倉院展を是非こころゆくまでご堪能ください。

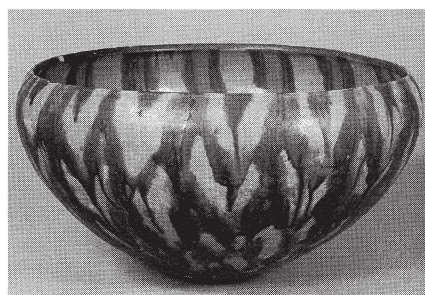
【主な展示品】

螺鈿紫檀琵琶（らでんしたんのびわ）、紅牙撥鏝撥（こうげばちるのばち）、青斑石髓合子（せいはんせきのべつごうす）、黄金瑠璃鈿背十二稜鏡（おうごんりでんはいのじゅうにりょうきょう）、白葛胡禄（しろかずらのころく）ならびに箭（や）、錦道場幡（にしきのどうじょうばん）、三彩鉢（さんさいのはち）、赤銅柄香炉（しゃくどうのえごうろ）、紫檀木画箱（したんもくがのはこ）、正倉院古文書正集第十四卷（摂津国正税帳）（せつつのくにしょうぜいちょう）



螺鈿紫檀琵琶

紅牙撥鏝撥



三彩鉢

平常展

仏教美術の名品

本館 10月1日(日)～12月24日(日)

西新館 ～10月9日(月)、12月2日(土)～12月24日(日)

平常展は、本館と西新館で陳列を行なっています。明治以来の伝統をもつ本館の陳列作品はすべて彫刻で、飛鳥時代から鎌倉時代に至る仏像を中心とした日本彫刻、及びその源流ともいべきガンダーラや中国などの諸作品を幅広く紹介します。

また、西新館では、仏教美術の名品を絵画・書跡・工芸・考古のジャンル別に展示しています。平常展とは言うものの、多数の国宝・重要文化財を含む名品が100点以上含まれ、随時展示替えも行なっていますので、平常展の充実ぶりを存分に味わってください。

なお、西新館は10月10日(火)より正倉院展の準備などのため閉館し、12月2日(土)より平常陳列を再開いたします。

特別出陳

唐招提寺金堂 国宝 木心乾漆薬師如来立像

本館 10月1日(日)～12月24日(日)

唐招提寺金堂の修理に伴い、しばらくの間、唐招提寺金堂の薬師如来立像（国宝）を当館で展覧することになりました。奈良時代末～平安時代初頭の傑作として名高い像です。昭和41年の修理の際に、左の掌のひらから和同開珎・萬年通寶・隆平永寶の3枚の銅銭が発見されていることでも有名です。みごとな木心乾漆の巨像を間近にご鑑賞ください。

特別出陳

薬師寺講堂 重要文化財 銅造薬師三尊像

西新館 ～10月9日(月)、12月2日(土)～12月24日(日)

薬師寺講堂の修理に伴い、巨大な薬師三尊像を当館にて展示しています。この薬師三尊像は、近年の修理によってかつての威容を取り戻しています。是非ごゆっくりとご覧ください。



●薬師如来立像（唐招提寺）

特別展 第52回正倉院展 東・西新館

〈主な出陳品〉

【**楽器**】螺鈿紫檀琵琶、紅牙撥鏤撥、甘竹簫付楸木帶、鉄方響

【**儀式用具**】緑牙撥鏤尺、白牙尺、斑犀尺

【**調度品**】青斑石龜合子、青斑鎮石、赤漆小櫃付牌、黄金瑠璃鈿背十二稜鏡、鳥獸花背円鏡、漆皮鏡箱、鳥獸花背八稜鏡、漆皮八角鏡箱

【**武器・武具類**】梓弓、槻弓、輅、漆葛胡禄および箭、赤漆葛胡禄および箭、白葛胡禄および箭、雉羽箭、雕雌雄染羽玉虫飾箭、鉾、桙杵

【**古文書**】正倉院古文書正集第十四卷(和泉監正税帳・摂津国正税帳)、正倉院塵芥文書第三十九卷(伊予国正税出挙帳)、正倉院古文書正集第四十一卷(豊前国上三毛郡塔里戸籍・加自久也里戸籍)、続修正倉院古文書第十卷(山背国愛宕郡計帳)、続修正倉院古文書第十七卷(郡司真人解ほか)、続修正倉院古文書第二十二卷(造甲加寺所解ほか)、続修正倉院古文書後集第二十九卷(奉写一切経所布施申請解)

【**佩飾品・ミニチュア品**】琥珀魚形、水精玉、斑犀小尺、紫檀銀絵小墨斗付旧糸車、紫檀金銀絵小合子、雜帶

【**染織品**】錦道場幡、夾纈羅幡殘欠、赤地鴛鴦唐草文錦大幡垂飾、赤地錦半臂、紫地獅子奏楽文錦、緑地狩獵文錦、浅緑綾几褥、縹地唐草花鳥文夾纈絶、黄地雲鳥花文臈纈羅

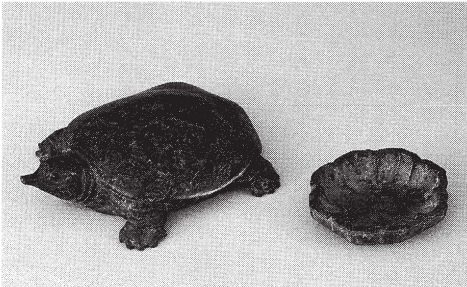
【**仏具**】三彩鉢、二彩瓶、二彩大皿、緑釉皿、黄釉皿、犀角銀絵如意、赤銅柄香炉、鉄三鉢、素木三鉢箱、雜玉誦数付題箋、銀鉢

【**献物箱・几**】粉地花形方几、粉地彩絵几付白綾几褥、漆八角几、紫檀木画箱、檳榔木画箱、籠箱

【**經典・経帙類**】竹帙、斑蘭帙、金字牙牌、経帙牌、経帙牌、経帙牌、経帙牌、大智度論卷第五十四(唐経)、十誦律卷第三十三(光明皇后御願経)、説無垢称経卷第一(称徳天皇勅願経)



紫檀木画箱



青斑石龜合子

特別出陳　本館	特別出陳　西新館
◎薬師如来立像（唐招提寺金堂）	◎薬師三尊像（薬師寺講堂）

平常展 「仏教美術の名品」本館・西新館

本館　10／11～12／24

【**彫刻**】第1室　飛鳥～奈良時代の彫刻　◎木造薬師如来立像(唐招提寺　金堂)、◎乾漆・木造梵天立像、◎乾漆・木造伝救脱菩薩立像(以上秋篠寺)、●木心乾漆義淵僧正坐像(岡寺)、◎木心乾漆阿閼如来坐像(西大寺)、●木心乾漆光背殘欠〈十一面観音立像所用〉(聖林寺)、◎銅造光背〈二月堂光背〉(東大寺)、●脱活乾漆舍利弗立像〈十大弟子像のうち〉、●脱活乾漆目犍連立像〈十大弟子像のうち〉、●脱活乾漆緊那羅立像〈八部衆像のうち〉(以上興福寺)、◎木造菩薩立像(金竜寺)、●銅造法華説相図(長谷寺)、銅造観音菩薩立像(当館)、◎木造十一面観音立像(薬師寺)、◎木造西大門勅額(東大寺)、◎鳳凰文塼、方形三尊塼仏(以上南法華寺)、川原寺裏山遺跡出土塼仏(明日香村)、伝橘寺出土塼仏、夏見庵寺出土塼仏、天華寺跡出土塼仏(以上当館)

第2・3室　平安・鎌倉時代の彫刻　◎木造阿弥陀如来立像(裸形阿弥陀)(浄土寺)、◎木造増長天立像(興福寺旧蔵)、◎木造多聞天立像(以上当館、～12/3)、◎木造広目天立像(興福寺、～12/3)、◎木造十二神将立像(東大寺、12/5～)、●木造行賀坐像(法相六祖像のうち)(興福寺)、◎木造重源上人坐像(浄土寺)、◎木造十一面観音立像(元興寺)、◎木造千手観音立像〈千体観音像のうち〉(妙法院)、◎木造薬師如来立像(元興寺)、◎木造薬師如来坐像、木造如来立像(以上当館)、◎木造吉祥天立像(法明寺)、◎木造十一面観音立像(薬師寺)、◎木造聖観音立像(観心寺)、◎木造千手観音立像(園城寺)、◎木造十一面観音立像(勝林寺)、◎木造十一面観音立像(地福寺)、◎木造観音菩薩立像(セゾン現代美術館)、木造菩薩立像(当館)

第4～6室　ガンダーラ・中国・韓国の彫刻　<ガンダーラ>石造如来立像、石造菩薩立像、ストウッコ如来頭部、ストウッコ如来坐像、ストウッコ菩薩立像、ストウッコアトラス像、石造貴婦人群像、石造仏伝図浮彫〈提婆達多の暗殺失敗・涅槃〉、石造仏伝図浮彫(舍利八分)(以上個人)、<中国>銅造仏三尊飾板、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、銅造力士立像、銅造力士立像、◎木造諸尊仏龕(以上個人)、方形独尊坐像塼仏、方形阿弥陀三尊塼仏、方形独尊塼仏、小型独尊塼仏(以上当館)、多宝塔塼仏(個人)、石造如来頭部(雲岡)、石造菩薩頭部(鞏県)、石造如来頭部(天龍山)、石造菩薩半跏像(以上個人)、◎乾漆力士立像(当館)、石造仏五尊碑像東魏・武定7年(549)銘、石造仏立像北斉・天統4年(568)銘、石造仏浄土碑群像、◎石造三尊仏龕唐・長安年間(701-4)(以上個人)、<朝鮮半島>銅造如来立像(光明寺)、銅造如来立像(当館)

第7～第13室　日本彫刻の諸相　木造十一面観音立像(奈良・広瀬区)、◎木造観音菩薩立像(本山寺)、◎木造十一面観音立像(当館)、◎木造弥勒仏坐像(東大寺)◎木造伎楽面・力士、◎木造伎楽面・醉胡従、◎木造伎楽面・太狐父、◎木造伎楽

◎銅造法華説相図(長谷寺)

面・治道(以上東大寺)◎木造伎楽面・醉胡王(当館)、◎木造舞楽面・散手(東大寺)、◎木造舞楽面・納曾利、◎木造舞楽面・新鳥蘇(以上春日大社)、◎木造舞楽面・貴徳、◎木造舞楽面・陵王(以上東大寺)、銅造釈迦如来立像、銅造釈迦如来立像(以上当館)、◎銅造菩薩半跏像(神野寺)、◎銅造菩薩立像(法起寺)、銅造観音菩薩立像(当館)、◎銅造観音菩薩立像(金剛寺)、◎銅造菩薩半跏像(東大寺)、◎銅製押出仏(法隆寺)、銅製押出仏、◎木造釈迦如来立像〈清凉寺式〉(以上当館)、木造阿弥陀如来立像(個人)、木造阿弥陀如来及両脇侍立像(峰定寺)、木造弥勒菩薩立像(林小路町)、◎木造地藏菩薩立像(春覚寺)、◎木造飛天像(西金堂本尊光背附属)(興福寺)、木造南無仏太子立像(西大寺)、◎木造聖徳太子立像(成福寺)、◎木造大黒天立像(興福寺)、◎木造十二神将像(辰神・未神)(室生寺)、◎木造愛染明王坐像、木造如意輪観音坐像、木造地藏菩薩立像、木造十一面観音立像、木造蔵王権現立像(以上当館)、◎銅造蔵王権現立像(大峰山寺)、木造伊豆山権現立像(当館)、木造大將軍神坐像(大將軍八神社)、●木造八幡三神像(薬師寺)、木造男女神像(当館)、木造狛犬(植槻八幡神社)、◎銅造阿弥陀如来立像(善光寺式)(善光寺)、銅造釈迦如来坐像(園城寺)、銅造不動明王立像(当館)、鉄造阿弥陀如来立像(西法寺)、◎木造増長天立像(称名寺)、◎木造十二神将立像(東大寺、～12/3)、◎木造増長天立像(法明寺、12/5～)、◎木造毘沙門天立像(当館、12/5～)、●板彫十二神将立像(波夷羅・珊底羅)(興福寺)、木造大日如来坐像(西城戸町)、木造仏頭、木造菩薩頭(以上松尾寺)、木造阿弥陀如来坐像、◎木造地藏・龍樹菩薩坐像(以上当館)

西新館　12／2～12／24

【**絵画**】◎釈迦三尊像(総持寺)、普賢十羅刹女像、文殊菩薩像、◎普賢延命像(以上当館)、◎十一面観音像(太山寺)、◎十二天像(梵天・帝釈天)(聖衆来迎寺)、十六羅漢像(浄土寺)、◎五百羅漢像(大徳寺)、春日名号曼荼羅(当館)、春日鹿曼荼羅(西城戸町)、春日社寺曼荼羅(当館)、春日社寺曼荼羅(個人)、◎春日本迹曼荼羅(宝山寺)、◎春日宮曼荼羅(南市町自治会)、春日宮曼荼羅・仏涅槃図(個人)、◎春日浄土曼荼羅(能満院)、春日千体地藏図、春日文殊曼荼羅、春日毘沙門天曼荼羅(以上当館)、春日赤童子像(植槻八幡神社)

【**書跡**】◎春日権現講式(高山寺)、◎地藏講式(笠置寺)、◎弥勒講式(笠置寺)、法集経卷第三(五月一日経)(当館)、自在王菩薩経(五月十一日経)(海龍王寺)、般若燈論釈(薬師寺)、◎羯磨(東大寺)、◎法華経(丹生津比壳神社)、紺紙金字鬼問目連経(神護寺経)(当館)、●法華経(長谷寺)

【**工芸**】金銅輪宝羯磨文透彫幡(個人)、◎金銅透彫華鬘(神照寺)、●金銅透彫華鬘(中尊寺金色院)、◎金銅種子華鬘、散蓮華蝶文螺鈿卓、一面器及び水瓶、金山寺香炉、金山寺香炉(以上当館)、金銅柄香炉(高山寺)、◎銅三具足(聖衆来迎寺)、王子形水瓶〔承盤付き〕、王子形水瓶、王子形水瓶、王子形水瓶〔かぶら形〕、仙蓋形水瓶、布薩形水瓶、◎銅梵鐘(以上当館)、銅梵鐘(海住山寺)、銅梵鐘〔日鮮混淆形式〕(当館)、◎銅鰐口(長谷寺)、●金銅透彫華篋(神照寺)、◎紙胎漆塗彩絵華篋(万徳寺)、竹製華篋(性海寺)、◎金銅密教法具(厳島神社)、金銅一面器(西大寺)、◎銅鐃(円福寺)、銅三鉢杵〔古式〕、金銅独鉢杵(以上当館)、金銅三鉢杵(個人)、金銅五鉢杵、金銅五鉢四大明王鈴(当館)、◎金銅四天王鈴(弥谷寺)、銅三昧耶鈴(金峯山寺)、金銅五鉢鈴、金銅金剛盤、金銅輪宝、金銅羯磨(以上当館)、ほか正倉院宝物模造

【**考古**】蓮花文鬼瓦(奈良・山村廃寺出土)(個人)、鬼神文鬼瓦(奈良・薬師寺出土)(京都国立博物館)、◎鬼瓦(伝奈良・大安寺出土)(個人)、隅木蓋瓦(和歌山・上野廃寺出土)、瓦塔(静岡・三ヶ日町出土)(以上当館)、◎石製九輪(奈良・山村廃寺出土)(円証寺)、●粟原寺伏鉢(談山神社)、●東大寺金堂鎮壇具(東大寺)、◎元興寺五重塔鎮壇具(元興寺)、霊安寺塔跡出土鎮壇具、◎佐井寺僧道薬墓出土品、◎出雲荻杵古墓出土品、銅経筒〔平治元年銘〕、金銅宝幢形経筒、金銅厨子形経筒(以上当館)、◎朝熊山経塚遺物〈三重・経ヶ峯経塚出土〉(銅経筒2口、銅鏡2面)(金剛証寺)、◎銅経筒・滑石外筒(伝福岡県出土)、経塚遺物(銅経筒、陶製外筒片、鉄製大刀、和鏡、青白磁合子等)(以上当館)、◎藤原道長願経(奈良・金峯山経塚出土)(金峰神社)、紙本墨書法華経(和歌山・粉河経塚出土)、紙本朱書法華経(伝大分県出土)(以上当館)、◎銅板経〈大分・長安寺経塚出土〉(長安寺)、瓦経(福岡・飯盛山経塚出土)、青石経(愛媛・大日堂経塚出土)、泥塔経(鳥取・智積寺経塚出土)、黄釉褐彩貼花人物文水注、白釉緑彩水注、青磁双耳瓶、青白磁水注、青白磁花唐子文輪花鉢、青白磁花唐子文鉢(以上当館)

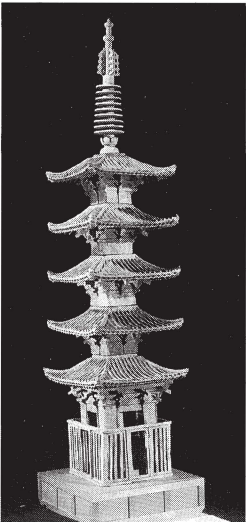
◎＝国宝　◎＝重要文化財　出陳品は都合により一部変更する場合があります。



◎乾漆力士立像(当館)



◎春日本迹曼荼羅(宝山寺)



瓦塔(静岡・三ヶ日町出土)(当館)



正倉院展

今では錦秋の奈良に花を添える国民的年中行事となった『正倉院展』は今年で52回を迎える。近代における正倉院宝物の調査は明治5年(1872)のいわゆる“壬申調査”が始まりで、この時宝物を点検し、初めて写真の撮影が行われた。同8年(1875)には東大寺大仏殿で第1回奈良博覧会が開かれ、宝物の一部が3月1日より5月12日まで展示された。同16年(1883)7月に年一度の定期曝涼^{ばくりょう}の制度が定められ、以降これが続けられている。翌年には正倉院の所管が内務省から宮内省に移され、同22年(1889)からは宝庫の定期曝涼時に一定資格者の参観が許可されている。同25年には宮内省に正倉院御物整理掛を置き、宝物の整理や復原修理が始められた。同41年(1908)には正倉院を帝室博物館の所管として東京帝室博物館に正倉院宝庫掛を置き、その後大正3年(1914)にその係は奈良帝室博物館に移されている。

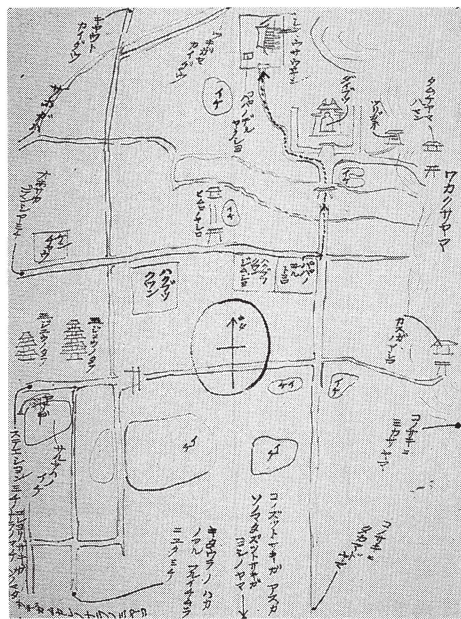
大正6年(1917)12月25日帝室博物館總長兼^ず書頭^{しよのかみ}に任じられた^{おうがい もりりん たろう}「鷗外」森林太郎は、翌年から定期曝涼点検の開封に立ち合うべく11月の大部分を奈良の地で過ごしている。大正7年11月5日付の森茉莉・杏奴・類に宛てた手紙には



正倉院 宝庫

(正倉院) (御倉) (虫干し) (奈良) (今日)
 パパハシヤウサウキントイフ天子サマノオクラノムシボシニナラヘキタノデス。ケフ天子
 (御書判、いわゆるサイン) (紙) (錠前) (巻) (解)
 サマノオカキハノアルカミデチャウマヘガマイテアルノヲイトミルト中カラヤモリガ
 (匹) (飛) (毎年) (匹) (入) (役人)
 ーピキ トビダシマシタ。マイネンーピキハイッテキルノダトヤクニンガイヒマシタ (後略)

と当日の様子が記されており、大正8・9・10年まで曝涼に立ち合った様子が残されている。大正11年は英国皇太子の正倉院訪問に従って5月1日から7日間奈良を訪れているが、この年は曝涼に立ち合うこともなく、7月9日に逝去している。



鷗外が子供たちに書き送った正倉院周辺の地図

宝物の国民一般への公開は昭和15年に紀元二千六百年を記念して東京帝室博物館で展観されたのが初めてで、戦後間もない昭和21年から過去3回皇室の御慶事のため東京で公開されたのを除き、毎年奈良国立博物館で『正倉院展』が開催されている。

間もなく開扉の無事を祈る「無障礙法要」^{むしやうげ ほうよう}が東大寺大仏殿で行われ、開封のはこびとなるが、今年初めてこれに立ち会う筆者は今から身の引締まる思いでその時を待っている。

9月11日記

(奈良国立博物館長 鷲塚 泰光)

(内田前館長に替わり、本年4月から鷲塚新館長が東京国立博物館より着任となりました。)

◆正倉院展 公開講座

10月28日(土)	星とスッポンー青斑石鰐合子をめぐって	宮内庁正倉院事務所保存課長	三宅久雄
11月1日(水)	黄金瑠璃鈿背十二稜鏡について	当館研究員	伊東哲夫
11月4日(土)	正倉院の弓矢	元宮内庁正倉院事務所長	阿部 弘
11月11日(土)	正倉院三彩をめぐる諸問題	当館研究員	高橋照彦

いずれも午後1時30分より3時まで。講堂にて。聴講無料。ただし先着200名。

◆ギャラリートーク

10月11日(水)	長谷寺・銅板法華説相図について	当館研究員	伊東哲夫
11月8日(水)	ガンダーラと中国の彫刻	当館研究員	稲本泰生
12月13日(水)	春日信仰の絵画	当館美術室長	中島 博

毎月第2水曜日に実施しています。いずれも午後2時より。陳列室にて。入館者の聴講自由。

◆親と子の文化財教室

11月25日(土)歩いて歩いて一遍上人／12月9日(土)現地見学(蓮華王院(三十三間堂))／平成13年1月13日(土)さまざまな塔のかたち／2月10日(土)「鎌倉時代の歴史と美術」のまとめ

小学5・6年生と中学生、その保護者を対象にした教室です。

今年度は「鎌倉時代の歴史と美術」をテーマに勉強しています。

ハガキに氏名・住所・郵便番号・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加を希望する月日(いくつでもかまいません)を記入して申し込んで下さい。参加料は無料ですが、見学科金が必要ながあります。定員は200名(先着順)です。現地見学を除き、当館講堂にて、午前10時から。

＊10月分の日程が11月25日に変更となりましたので、お間違えのないようお願いいたします。

◆ボランティアによる解説

ボランティアによる解説を展示室(正倉院展期間中は講堂)で行っています。

解説は、開館日の10:00～11:00～14:00～15:00～の4回(約30分)と、東大寺や法隆寺など、寺院別の解説6コース(5分～15分)が用意されており、自由に組合わせることができます。予約をすれば講堂または学習室でボランティアが画面に合わせて解説をします。お問合せは学習普及専門官 宮田(電話0742-22-7008)まで。

開館時間 午前9時より午後4時30分まで(入館は午後4時まで)

金曜日は午後8時まで(入館は午後7時30分まで)(10～11月のみ)

正倉院展期間中は、金曜日をのぞき午後5時まで(入館は午後4時30分まで)

休館日 月曜日(月曜日が祝日または振替休日の場合は開館し、翌日が休館。)正倉院展期間中は無休

観覧料金 毎月第2・4土曜日は、小・中学生無料。10月22日(日)は無料観覧日

正倉院展		大人	高・大生	小・中生
	一般	830円	450円	250円
	団体	560円	250円	130円

平常展		大人	高・大生	小・中生
	一般	420円	130円	70円
	団体	210円	70円	40円

※団体は責任者が引率する20名以上。

※正倉院展料金で平常展もあわせて観覧できます。

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(80円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の企画普及室にお申し込み下さい。